



2026 年 6 月 26 日

第 103 回 定時株主総会 質疑応答（要旨）

（回答者）

代表取締役 社長執行役員 櫻井昭彦

＜事前質問＞

昨年東京産業の株式を取得し筆頭株主となったが、その後状況に変化が無いように見える。
今後どのように対応していくつもりか。

＜回答＞

（櫻井）

当社は現在、年間 150 件以上の IR 面談を行っておりますが、数多くの株主や投資家の皆様から、同様のご質問を頂戴しております。

昨年 4 月の株式取得時には大量保有報告書にて、「投資収益を目的とした取得ですが、今後政策保有目的へ変更の可能性を検討してまいります」と説明し、その後、両社の営業部門や企画部門で情報交換会を開催するなど交流に努めてまいりました。

当社は現在時価総額 2,000 億円を目指していること、東京産業の筆頭株主であること、株式市場などから後押しする声があることなどを踏まえ、東京産業と「持続的な成長と企業価値の向上策」について経営レベルでの協議を行うことになりました。

両社にとって株主の負託に応える重要な協議と考えております。

協議の状況につきましては、適宜公表してまいります。

（回答者）

代表取締役 社長執行役員 櫻井昭彦

＜事前質問＞

最近特に新卒採用において採用難が話題となっているが、募集や採用状況はどうなっているか。

＜回答＞

（櫻井）

採用状況につきましては、24 年度入社 10 名、25 年度入社 9 名、本年 4 月の入社も 16 名と必要な人数を採用できている状況であります。

最近の傾向として当社を本命として応募してくる学生が大半を占めるようになりました。

また、新卒採用後の離職率につきましては、0%を続けております。



(回答者)

取締役常務執行役員 高橋 紀行

<会場での質問>

中間株主通信に記載のあった、海外大型プロジェクト（ドイツ、ベトナム）の受注状況について教えてほしい。

<回答>

(高橋)

台湾積体回路製造（TSMC）が主に自動車産業向けのパワー半導体を製造するため、同社が70パーセントを出資し、欧州のBOSCH等自動車関連会社3社がそれぞれ10%ずつ出資してEuropean Semiconductor Manufacturing Company（以下、ESMC）という会社を設立しました。

ESMCはドイツのドレスデンに工場を建設中であり、第1期工事の排水処理設備を、日本の栗田工業社が受注しておりますが、当社のドイツ現地法人であるSeika Sangyo GmbH（以下、SSG）は、その栗田工業の排水処理設備に使用する、各種タンクや配管材等々の製品をヨーロッパの4社程の現地メーカーから、合計約40億円弱（日本円換算）の仕事を受注しております。

現在受渡が順調に進行しておりまして、今年の夏ごろに完了予定となっております。なお、ESMCの工場試運転は、年末ぐらいと聞き及んでおります。

第2期以降の工事につきましては、EU内の自動車産業の苦境を受け、ストップしている旨、現地より報告を受けております。

SSGのドレスデンの事務所は現在3名体制で稼働しており、定期的にデュッセルドルフの本社がバックアップに行くという体制で、運用しております。

ベトナムにおきましては、当社の取引先である（株）トクヤマ様が工場を建設中であり、建屋建設および各設備関係の現地調達を当社のベトナム現地法人でありますSEIKA SANGYO (VIETNAM) COMPANY LIMITEDが請負っており、順調に進んでおり8月に竣工式を迎える予定です。

(回答者)

常務執行役員 河井 卓二

取締役常務執行役員 高橋 紀行

<会場での質問>

旭サナックの今後の収益性について教えてほしい。また、現進行期の業績予想について現状のイラン情勢を踏まえ何か変化があるか教えてほしい。



<回答>

(河井)

旭サナック(株)につきましては、昨年12月1日に買収完了いたしました。買収額につきましては、バランスシートの調整も含めまして、188億円となりました。投資回収につきましては、買収時点における同社の確からしい収益計画に基づきまして、16年と見込みました。今回発生したのれんは115億円ということになりますので、こちらの金額を16年で、償却するということになっております。

買収当時は、每期約14億から15億円の営業利益を見込んでおりましたが、2026年度におきましては、18億円の営業利益を見込んでおります。

のれんの償却を、年間7億円程度と見越しておりますので、約11億円が今年度における収益貢献ということになっております。当社は、事業投資・M&Aを単なる株式投資とは考えておらず、当社の営業力を活用し更に伸ばしていくということを考えております。

当第4四半期に発表予定の次期中期経営計画につきましては2030年度が最終年度になりますが、旭サナック(株)の営業利益は25億円まで、増やしていきたいと考えております。

(高橋)

イラン・中東情勢につきましては、当社の取引先様等々におきましてはまだ直接的な影響出ておりません。しかしながら、影響が長引いたことにより、一部のお客様から今年度の設備投資等につきまして、一旦ストップして様子見をするというような話も出てきております。

イラン・中東情勢が落ち着くまではそのようなお客様の情報を幅広く収集し、影響に備えてまいりたいと考えております。

その他出席された株主様より、本年4月に策定したタグライン“人を想い、産業を繋ぐ”について、「社是、環境、人、と色々な要素を考慮した上、適切な言葉が選ばれ、その言葉を紡いだ簡潔なフレージングの中に、西華の役割が落とし込まれたもので、見る人にいろいろな思いを抱かせる、見事なタグラインになっている。」とのご感想をいただきました。

以 上

(将来の予測に関する注意事項)

本資料にて開示されておりますデータおよび将来に関する予測につきましては、本日現在入手可能な情報に基づくものであり、予測不能、もしくは不確定な要因により、大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。